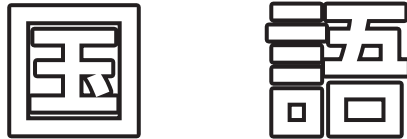


2025年度 入学試験問題



(6 0 分)

〔 注 意 〕

-
- ① 問題は㊦～㊨まであります。
 - ② 解答用紙はこの問題冊子の間にはさんであります。
 - ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入すること。
 - ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入すること。
 - ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。
-

西大和学園高等学校

問題は次のページから始まります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、各段落の付いている数字は形式段落を表す。

①コミュニケーションが「理想的」に行われる場合の図式をもう一度復習してみよう。まず「発信者」と「受信者」との間に「雑音」の介入しない「経路」がつながっていることは言うまでもない前提条件である。その上で、コミュニケーションをバイカイする「コード」が「発信者」と「受信者」の間で同一であり、両者ともそれを同様に完全に身につけており、しかもそれに忠実に従って「メッセージ」を作り、読み取る。そればかりでなく、定められた「コード」によって表現できる以上のことにも以下のことにも、両者は関心を抱いてはならない。このような条件の下でコミュニケーションが行われれば、「発信者」のメッセージ作成と「受信者」のメッセージ解読とは、方向を正反対とするだけで基本的には同一の過程となり、「メッセージ」の形にされた「伝達内容」が再びその「メッセージ」から正確に戻されるということが起こる。

②モールス信号によるコミュニケーションの場合だと、「経路」さえ保証されていれば、この「理想的」な形での伝達にほぼ近いものが起こる。「伝達内容」は言語で表現されたメッセージ（しかも、書きことばの形で表現されたもの）である。「コード」には「イ」、「ロ」、「ハ」……（あるいは、西欧のことばならアルファベットの文字一つ一つ）に対して用いられるべき記号が（「イ」なら「トン・ツー」、「ロ」なら「トン・ツー・トン・ツー」、「ハ」なら「ツー・トン・トン・トン」のように）決められており、「発信者」はこの決まりに従って、もとの書きことばの仮名（あるいは、アルファベット）文字を一对一にモールス信号に置きかえて行けば「メッセージ」ができる。「受信者」はモールス信号の一つ一つを同じ「コード」に従って一対一に書きことばに還元する。「発信者」と「受信者」の^②ソウサは逆方向であるだけで基本的には同じであるから、「伝達内容」は損なわれることなく正確に届けられる。かに曖昧さがあったとしても、それはもとの「伝達内容」（つまり、送られるべきことばによる表現）による曖昧さである。言いかえれば、「伝達内容」の曖昧さもそのまま損なわれることなく伝えられるわけである。

③理想的なコミュニケーションを可能にする前提として、もう一つ考えておかななくてはならないことがある。「発信者」と「受信者」は、決められた「コード」に忠実に従って「メッセージ」の作成と解読をすることが期待されているわけであるが、その際「コード」そのものも明確に規定されていなくてはならない。¹明確に規定されたコードとはどのようなものであろうか。

④まず、何がそのコードに属する「記号表現」として機能するかが明確に規定されていなくてはならない。例えば「モールス信号」のような場合は、その点が大変明確である。モールス信号表に記載されているものがそれであり、それ以外のものは用いられてはならない。

⑤「記号表現」の範囲が明確であると同時に、それぞれに対応する「記号内容」のほうも明確に規定されていなくてはならない。これ

もモールス信号の場合はきわめて明確である。送信文が日本語の場合なら、「トン・ツー」という記号表現は〈イ〉という明確な記号内容と対応する。

⑥そして、もう一つ、「記号表現」と「記号内容」の対応が一对一であることが望ましい。これもモールス信号の場合は満たされている。「トン・ツー」は常に〈イ〉のことであり、それ以外のことを意味することはない。対応が一对一であれば、ある「記号表現」に接して可能ないくつかの「記号内容」のどれが妥当するのとか、ある「記号内容」を表すのに可能ないくつかの「記号表現」のどれが適当なのか、などと迷ったりすることはないわけである。

⑦理想的なコードに基づいて、前節で見たような形で理想的な伝達が行われれば、コミュニケーションは完全である。送信者の伝達内容は損なわれることなく、受信者によって受け取られる。

⑧理想的なコミュニケーションは完全な伝達が行われるという意味で確かに典型ではあるが、その一方では何か余りにも「機械的」で人間のコミュニケーションらしくないと感じられる。そのようなコミュニケーションであれば、機械に任せておくこともできるであろうし、むしろ、そのほうが間違いが起らないのではないかと思われる。機械のほうがコードの規定に間違いなく、忠実に従ってくれるからである。

⑨人間がことばによってコミュニケーションを行う場合には、もう少しいろいろなことが起こるはずである。ことばの「コード」は社会的な規約として一応それによる共通の理解を可能にするだけの^③ソクバク力は持っているが、そこからの「ずれ」が絶対に許されないというようなものではない。

⑩「ずれ」を含む表現には、もちろん話し手、あるいは聞き手の単なる思い違いということもある。そのような「ずれ」は大体においてすぐ「訂正」を受け、ことばの「コード」に何ら^④エイキョウを及ぼすことのないものである。しかし、ある種の「ずれ」は場合によってはまったくの偶然から、あるいは場合によっては^②訂正されるには余りにも価値のありすぎるものとして、一時的に、あるいはことによっては多かれ少なかれ永続的に受け入れられるということも起こる。それは既成の「コード」を脅かす、そして時にはそれを変えてしまふこともありうる。

⑪例えば「ケシゴムの悲哀」という表現に出会ったとしよう。まず第一に受ける印象はふつうでない表現であるということであろう。「コード」からずれた表現であるからである。つまり、「悲哀」ということばを用いることができるのはふつう（人間）に関してである。だから「サラリーマンの悲哀」というのはふつうに受け入れられる表現であるが、「ケシゴムの悲哀」はそうではない。しかし、この「ずれた」表現を通じて、われわれは今まで「コード」の^⑤ワクナイのことば遣いを通しては経験しなかったようなことを経験す

る。身を削って働いたあと、待っているのは棄てられるという運命のみ——「哀れな奴」というケシゴムについての想い——その想いがいつの間にかわが身についての想いに変ってしまい、ケシゴムとの間に不思議な すら現れてくる。コードが破られることによって、一つの新しい経験が触発されたわけである。これは一つの新しい創造である。

⑫定められたコードに従ってコミュニケーションを行う。——それは間違いがなく能率的で、狭い伝達ということだけであるなら大変結構なことである。しかし、そのようなことばはわれわれを一定の枠の中に閉じ込めてそこから逸脱するということを許さない牢獄としての機能をも果す。既存の体制の中でのソウサの可能性しか提供しないからである。

⑬コードからの「ずれ」を含むことば遣いは、日常的な情性に陥ってしまっているわれわれに、それを超えた新しい世界を垣間見させてくれる。それは科学におけるのとはまた全然違った意味での「発見」の機会を提供し、新しい「知識」を与えてくれるのである。

⑭「サラリーマンの悲哀」という表現は、日常のことば遣いとしてふつうである。それに対し、「ケシゴムの悲哀」という表現は、日常のことば遣いのコードを逸脱しているという意味では一見「意味をなさない」、あるいは「ナンセンス」な表現ということになるはずであった。しかし、実際にはそこから一応もつとも思われる意味を引き出すことも十分可能であることも見た。つまり、それが適用されてもおかしくないコンテキスト^(註)を考えることができるわけである。

⑮さらに進んで、もし「ケシゴムの丸い悲哀」というような表現になったらどうであろうか。この表現には二重の「ずれ」が含まれている。〈悲哀〉が〈ケシゴム〉という人間以外のものの感情として擬せられているばかりでなく、〈悲哀〉という形のないはずの抽象体に〈丸い〉という属性が与えられているからである。これだけずれてくれば、もう「ナンセンス」と烙印を押してもよいような印象を受ける。しかし、まだ十分まともな意味は引き出せそうである。例えば「丸い」というのは、使われてだんだん角が取れ、丸くなって行くケシゴムの姿であると考えればよい。そうすれば「使われて角がすり減り、だんだん丸く小さくなって行くケシゴムの姿——いかにも哀れを誘う」とでも説明しなければならない意味合いが、短く凝縮され、密度の高い形で表現されているのだと考えることができる。まだ「ナンセンス」にはならないわけである。

⑯「ケシゴムの（丸い）悲哀」のような表現から右のような意味を引き出している時、ふつう「比喩」的に解釈していると言われる。「サラリーマンの悲哀」といったような表現は（ふつうの使い方では——つまり、例えば「サラリーマン」がケシゴムに適用されているような場合でもない限り——）「比喩的」とは受け取られない。このような「ふつう」の表現を一方に置いて、「比喩的」な表現のもう一つの反対側には「ナンセンス」な表現があるはずである。「比喩的」な表現と「ナンセンス」な表現との間には、境界はないであろうか。

⑰いくつかの例についての議論からも分かる通り、ことばを使つての表現の場合は明確な境界線はとも引けないであろうこと
のようである。コードからずれた表現は、メッセージ作成の場合に従わねばならない決まりに違反しているという意味で「ナンセン
ス」な表現と解釈される必要条件是満たしているわけである。もし、人間が一定のプログラムを組み込まれた機械のようにコードに定
められたようにしか振舞わないとしたら、コードからずれているということは、とりもなおさず、その表現が「ナンセンス」と判断さ
れる十分条件にもなりうるわけである。しかし、人間は機械と違って、主体的に行動する可能性を備えている。コードからずれた表現
を作り出す——しかも、意図的に作り出す——ということがあるのと同様に、表現をコードから外れたようなやり方で解釈することも
できるわけである。(もちろん、同時に一見ナンセンスな表現をナンセンスとして解釈を拒否する自由も有している。)その際、³コン
テキストが大きな支えになる。しかし、そのコンテキストも現に問題の表現が使われている直接のコンテキストばかりでなく、想像
(あるいは、創造)されたコンテキストでもよいわけである。

⑱ずれた表現がそのようにしてそれなりのコミュニケーションの過程を一応経たとすると、ここでは既成のコードに対して修正が行わ
れたことになる。そのような修正はすぐその言語共同体全体のためのコードとして採用され、確立するとは限らない。いわば一つの修
正の提案である。しかし、それはコードを改めることに連なる可能性を持っている。「メッセージ」を作り、解釈するという行為を通
じて「コード」が改変されるのである。

⑲すでに「理想的」なコミュニケーションとして考えたような場合には、このようなことは起こらない。例えば、モルルス信号の場合
を考えてみればよい。そこでは「コード」が「メッセージ」を完全に支配する。⁴「メッセージ」が「コード」を脅かすというよう
なことは起こらない。

⑳また一方、もともとコードの明確さがきわめて低いような場合——例えば、ごく一般的な意味での身振り言語——を考えてみれば、
ここでもまたまったく別な意味で、「創造」的な営みは起こり難いということが分かるであろう。そこでは「メッセージ」が脅かすべ
き「コード」がもともと存在していないに近いからである。

㉑「ことば」のコードは、メッセージを完全に支配するほど強力なものではない。一方、それはいかなるメッセージの生成をも許容す
るほどルースなものでもない。一応高度に確実な伝達の手段として働きうると同時に、人間としての主体的な行為から生まれる創造を
も取り込むことができるのである。「ことば」に備っているこのような両面性の故に、⁵「ことば」はそれ以外のどのような記号体系
に対しても、それを捉える際の有用なモデルとなる可能性を持っているのである。

【語注】

(注1) コンテキスト … 文脈。

問一 二重傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直せ。楷書で丁寧を書くこと。

問二 傍線部1 「明確に規定されたコード」とはどういうものか。本文の表現を使って五十字程度で説明せよ。

問三 傍線部2 「訂正されるには余りにも価値のありすぎるもの」とあるが、どういうことか。このことを説明したものとしてふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 「ことば」と「コード」にずれが生じているものの、そのずれが存在することによって新たな経験がもたらされること。
イ 「ことば」と「コード」の一致をあえてずらすことで、そこに新たな価値が創造され、修正する必要性がなくなること。
ウ 「ことば」と「コード」のつながりを間違えることで、本来のつながりよりも良いものに変えていこうと努力すること。
エ 「ことば」と「コード」の正しい関係を知らないばかりに、間違えたつながりが逆に良いものを生み出してしまうこと。
オ 「ことば」と「コード」の組み合わせが間違えていることに気付かないままに会話することが、楽しさを生み出すこと。

問四 文中の空欄に入る最もふさわしい言葉を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 存在感 イ 安心感 ウ 連帯感 エ 既視感 オ 高揚感

問五 傍線部3 「コンテキストが大きな支えになる」とはどういうことか。五十字程度で説明せよ。

問六 傍線部4 「メッセージ」が「コード」を脅かすというようなことは起こらない」とあるが、それはなぜか。五十字程度で説明せよ。

問七

傍線部5「ことば」はそれ以外のどのような記号体系に対しても、それを捉える際の有用なモデルとなる可能性を持っているのである」とあるが、どういうことか。このことを説明したものとしてふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 「メッセージ」と「コード」の対応がわかりやすいものについて考える際には、似たようなものを比較対象として考えるために、一対一対応の「ことば」を具体例として考えることで理解が容易になるということ。

イ 「メッセージ」と「コード」との対応が一対一であったり、逆にその結びつきが明確ではないものを考える際には、言語の「メッセージ」と「コード」を比較対象とすることで、その理解が容易になるということ。

ウ 「メッセージ」と「コード」の結びつきの、その結びつきの持つ意味がいくつも解釈される場合は、言語を具体例として考えることでその言語の持つ特色がわかりやすくなり、理解がはるかに容易になるということ。

エ 「メッセージ」と「コード」との結びつきが不明確で、そのつながりが理解不能なものをあえて利用することで、言語をわかりやすく捉えられるきっかけになり、結果的に表現内容の理解が容易になるということ。

オ 「メッセージ」と「コード」との結びつきが不明確なものを理解しようとするために、その不明確さの理解を速やかにするためモールス信号のような一対一対応のものを具体例として考えることが良いということ。

問八

本問題文を意味段落で分割したとき、どの組み合わせが正しいと言えるか。正しい組み合わせのものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑

イ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑

ウ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑

エ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑

オ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑

二 次の文章は、吉本ばなの短編小説「癒^いしの豆スープ」の冒頭である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

「咲ちゃん、あんたは作れないの？ あんなにそばにいたのに。散歩してても淋^{さび}しくってものたりなくってしょうがないよ。」
祖父母が亡くなってから、すれ違う近所の人たちに何回それを言われたことか。

「癒^いしていたのは、きっと祖父母の人柄のほうで、スープ自体じゃないんだと思うんですよ。」
私はそう答える。

するとみんな「それもそうだよね」と言いながらも深いところでは「な〜んだ、あんたはやっぱりなにもくれる気がないのか」というちよつと失望した顔をして帰っていく。

子どもが新しく買ったおもちゃをすぐに壊してしまつてがっかりしていららしているときの顔に似ている。
どんなに大人になつても、おばあさんやおじいさんになつても、そんなときはその人の子どもの顔を見せる。

これほど多くの人が、週末に朝の散歩をしているのかと驚くことがよくあつた。

のんびり歩いてくる人、家族といっしょの人、ひとりで瞑^{めい}想^{そう}してるようにただ歩く人、ジョギングしている人。様々だけれど、とにかく晴れていれば、いや、たとえ雨でも家を出てなんとなく目標を決めて歩く人たちの群れ。

なんのために？

^a 足の力を保つために、気分をよくするために、血行を整えるために。気分をよくして今日一日をなんとかよきものにするために。それぞれに問えば理由はあるのだろうけれど、深いところでは理由のない行動だと思う。

^b 人間^{人間}ってなんだろう、体があるってなんだろう。

朝起きたあと、時間があればなんとなく歩いてみたいあの気持ちは体から出てくるのか、心からなのか。ふたつがからまつて生まれるわがちがたい衝動からなのか。

そしてその歩きの途中に、ちようどよい憩^じいの場として町の人たちに設定された我が家。

なによ、みんなあてにしちやつて、と思うと同時に、自分の器の小ささを思う。

あんなにもただ欲しがる人たちに囲まれて、いやな顔ひとつせず^{一つ}に無料でスープを出し続けた祖父母。

先に祖母が亡くなり、祖父はその悲しみをぐつと抱えしよげて小さくなつて、三ヶ月後にそつと亡くなった。

こわいくらいなにも人に押しつけないふたりだった。そしてなにも人に押しつけないところだけがふたりの共通項だった。

近所の人たちの ¹生々しい反応にうんざりしてはいたけれど、実を言うと私も祖父母の豆スープが恋しくなっていた。私がこの家にやってきたとき、うちはすでに「豆スープが無料で飲める立寄どころ」だった。

売っていたわけではないから「豆スープ屋」でさえない。

祖父母は元々たばこ屋を営んでいた。

駅前からの商店街が終わって少し歩いた狭い道に面したところに、店舗だった部分がある。自宅の玄関から見るとそこは裏にあたる。たばこを売るスタンドと、その後ろのストック場と、数人が座れるようになっていているスペース。たったそれだけの小さい場所だった。

父からの仕送りが充分になり、ふたりとも年金をもらうようになり、祖父母は豆スープを大量に作るようになった。はじめはたばこ屋と同時進行だったが、やがて週末の豆スープが忙しくなっていたばこ屋はたたんだ。

月曜日に材料を買ってきて、仕込みをして、火曜日から金曜日まで煮込み続けて、土日に配るというペースも自然に決まったそう

だ。
近所の毎日寄っていくおばさんが胃をわずらったのがきっかけだったと祖母は言っていた。緑茶を出すと胃に悪いかもしれないから我が家特製の豆スープを出してあげよう、ということから始まったと。

そのおばさんはスープをおいしいと言って、毎週飲みに来て、胃を半分以上切ったのにすっかり元気になってしまった。
^cスープだけの力ではないとは思う。

おばさんの家からうちまで歩いて十分、ちょうどいいリハビリ運動のあとに、栄養のあるスープを飲んで祖父母とちよつとした温かいおしゃべりをして帰っていくと全部で三十分くらい。

その全部が、週末を楽しみに過ごすことや、豆スープに特に期待していなかったこととうまく相まって、彼女に奇跡を起こしたのだと思う。

おばさんの顔色はみるみるよくなり、おばさんの話す内容も明るくなっていったそうだ。

おばさんがあまりにも変わったので、おばさんの家族が、その知り合いが、しょっちゅう寄ってスープを飲んでいくようになった。じっくり座れないというのが、またよかったのだと思う。

丸いすか、塀にもたれての立ち飲みか、迷惑にならない程度に道に立って飲むことしかできないから長くはいられない。おのずとそこでは長話やぐちを控える雰囲気になった。時間があるときボランティアで手伝ってくれる人たちもいたので、教会で無料の食事を

配っているときの健全で静かな雰囲気がいちばん似ていたかもしれない。

祖父母がそんなに話し上手ではなくわりと無口だったので、おしゃべりしようと思気込んで来た人たちも肩すかしみたいな感じが
あっただろう。

紙コップではお金がかりすぎるし買い出しが大変だしゴミも多すぎると祖父が言い、近所の公園でやっていた陶器市でひとつ百円で買った湯のみに入れて豆スープは供されていた。あまりにも多いその洗い物で祖母の手ががさになっていたので、越してきたときに母が食洗機を寄付した。

世間の思い込みと違って意外にも「なんでも心をこめて手でやります」みたいなタイプではなかった祖母は、母のそんな思いやりをとても喜んだ。

「みんなが私をすごく昔気質のまじめな人だと思っただけど、こういう電化製品は大歓迎よ、ありがとうね、すごく助かった。こんなこと思いついてくれる人他にいないよ。智子さんはほんとうの娘だよ。」

祖母が食洗機を抱きしめんばかりにしながらそう言っているあいだ、母が恥ずかしそうにしていた少女みたいな顔をよく覚えてい
る。

以来、食洗機ががらがん回る音が我が家の週末の午前中のBGMになっていた。

私は食洗機の水音を好きになった。水が焼き物の間をぐるぐる回る生き生きとした音。乾燥機をかけている場合ではないから洗いが
ついたらそれをどどん拭くのは私の仕事だったが、その作業も嫌いではなかった。ほかほかの食器をひたすら拭いているとなぜか幸
せな気持ちになる。

土日ともにたいてい午前中で豆スープは品切れ、それでおしまいだった。

残念がる人には「ここは店じゃないからなくなったらおしまいなんですね、また明日（もしくは来週）来てね」と祖母が言い、おかわ
りを欲する人にはその状況（家は遠いのか、また来られる人なのか、どうしてそんなにひもじいのか）をたずねて、もう一杯出してあ
げることもあった。ホームレスの人には必ずおかわりを出していた。

そんな全てを眺めているうちに私は人間が愛おしくなり、そしてこわくなった。

豆スープがほしい、おいしい、嬉しい、ありがとう、よかったらこれ受けとって、そこまではみんな思い至る。

でも、祖母の手がまるでぼろぞうきんみたいにがさがさになって、血が出てばんそうこうをしているのに、それには気づかない。鍋
を運んでくる祖父が足を引きずっていても、めったに手伝いはしない。それをなんとも思わないでいられる、あるいは目に入らない、

あるいは見てみぬ振りをする、人間の鈍感さ。あるいはずるさ。

え、もうなくなるの、でも私まではもらえるよね？　というときにだれも見せる同じ表情。

欲しい、というコンタクトレンズをはめたように、他のことは見えなくなってしまう、少しでも多くもらいたいと思う。スープらしいのとならこういう面を見せてもいいだろう、という感覚。善良な人々に潜む³ 小さな悪魔がこわかった。極小だからこそ、決して消えることはない。

それなのになぜだろう、豆スープを手にとってほっこりとした笑顔になる人たちを見ると、涙が出そうになってしまふ。それだからやめられない、人間を、豆スープを。そう思った。自分の中にも極小の悪魔と同時に潜む、そのくめどもつきない愛のかけらみたいなものを、どちらも小さいその消えないものを、味わいたいような気持ちにいつしかなっていた。

問一 二重傍線部 X・Y の意味を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

X 「肩すかし」

ア 思い通りにいかず、うんざりすること。

イ 気力を失ったり、落胆したりすること。

ウ ある人のために尽力し、味方すること。

エ 向かってくる相手の勢いをそらすこと。

オ 困難にどうしてよいか分からないこと。

Y 「昔気質」

ア 昔からの規則や基準に厳密に従うこと。

イ ものの考え方が頑固で昔風であること。

ウ 他人との接し方がおだやかであること。

エ 人との関係性や義理を大切にすること。

オ 昔に習得した技能を忠実に生かすこと。

問一 傍線部1「生々しい反応」とあるが、それはどのような様子か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号

で答えよ。

ア 豆スープを作っていた咲の祖父母の死に対して、表面的には追悼の意を示しているように見えるが、実際にはそれほど悲しんでいない様子。

イ 咲が祖父母とともに作る豆スープを食べることを欲しているが、それが叶わないことに対して悲しみの表情をあらさまに見せている様子。

ウ 祖父母が生前作っていた豆スープを孫の咲が作れないことに対して、がっかりした気持ちを全く包み隠さずに、直接的に表現している様子。

エ 咲の祖父母の死後、咲に豆スープを振る舞われることを期待していたが、それを拒否されたことに対して極めて強い怒りを覚えている様子。

オ 咲が、祖父母が作っていた豆スープを提供することが出来ないことに接して、表面的には理解を示しつつも、落胆を隠しきれない様子。

問二 傍線部2「幸せな気持ちになってくる」とあるが、なぜか。考えられることとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 母が祖母に贈った食洗機によって洗浄された食器を拭くことで、乾燥機代が節約され、苦しい祖母の家計を助けることにつながるから。

イ 母が祖母に贈った食洗機によって洗浄された食器を拭くことで、豆スープの提供に苦勞する祖母の力になれていると実感しているから。

ウ 母が祖母に贈った食洗機によって洗浄された食器を拭くことで、豆スープ提供の能率を上げより多くの人を喜ばせることができるから。

エ 母が祖母に贈った食洗機によって洗浄された食器を拭くことで、咲自身の心の中に巣食う醜い部分も食器と同時に洗浄されているから。

オ 母が祖母に贈った食洗機によって洗浄された食器を拭くことで、祖母にとっての「ほんとうの孫」に近づけていると実感しているから。

問四 傍線部3「小さな悪魔」とあるが、その性質に当てはまらないものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 無神経

イ 虚栄心

ウ 私利私欲

エ 厚顔無恥

オ 傍若無人

問五 咲にとって豆スープとはどのようなものか。本文全体の内容を踏まえて、八十字以内で説明せよ。

問六 本文の表現の特徴について説明したものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 波線部a「足の力を保つために」の付近では、「ために」を繰り返して用いているが、それによって並立させられたいずれもが、人々が朝に散歩をすることの決定的な理由として強調されている。

イ 波線部b「人間ってなんだろう」の付近において「だろう」を繰り返して用いるのは、咲が読者に哲学的な問いを投げかけていることを示しており、読者に深く考えさせるきっかけになっている。

ウ 波線部c「スープだけの力ではないと思う」のあと「思う」が比較的多く用いられるが、これらは現在の咲が生前の祖父母や豆スープのことを回想し、考えを整理していることを示している。

エ 波線部d「母が恥ずかしそうにしていた少女みたいな顔」という暗喩を用いた表現は、食洗機を贈ったことで祖母にとっての「ほんとうの娘」に近づくことができた母の喜びを印象付けている。

オ 波線部e「豆スープがほしい、おいしい、嬉しい、ありがとう、よかったらこれ受けとって」という表現は、ある一人が感謝を矢継ぎ早に述べている様子を「」を使わずに描写したものである。

三

娘（齋宮・宮）を「うしろめたく」^{氣がかりに}思い、光源氏に後見人となってくれるよう遺言する六条御息所の臨終の場面である。次の文章は、見舞いに来た源氏に、御息所が対面しているところから始まる。

御息所
女もよろづにあはれに思ひて、齋宮の御ことを
聞こえたまふ。^{（注2）}

「心細くてとまりたまはむを、必ず事にふれて数まへきこえたまへ。また見ゆづる人もなく、たぐひなき御ありさまになむ。かひなき身ながらも、いましばし世の中を思ひのどむるほどは、とぎまかうさまにものを思し知るまで見たてまつらむ、とこそ思ひたまへつれ」^{（注3）}

とても、消え入りつつ泣いたまふ。

「かかる御事なくてだに、思ひ放ちきこえさすべきにもあらぬを、^{（注1）}まして心^{（注4）}の及ばむに従ひては、何^{（注5）}ごとく後見きこえむとなん思ふたまふ。さら^{（注6）}にうしろめたくな思ひきこえたまひぞ」

など聞こえたまへば、

（御息所）「いと難きこと。まことにうち頼むべき親などにお世話^{（注7）}をまかす場合の娘め。まして思ほし人めかさむにつけても、あちきなき方やうちまじり、人に心もおかれたまはむ。うたてある思ひやりごとなれど、^{（注8）}かけてさやうの世づいたる筋に思し寄るな。うき身をつみはべるにも、女は思ひの外にても思ひを添ふるものになむはべりければ、いかでさる方をもて離れて見たてまつらむと思ふたまふ」^{（注9）}

など聞こえたまへば、あいなくものたまふかな、と思せど、

（源氏）「年ごろによろづ思うたまへ知りにたるものを、昔のすき心のなごりあり顔にのたまひなすも本意^{（注10）}なくなむ。よしおのづから」

とて、外は暗うなり、内は大殿油のほのかに物より透りて見ゆるを、もしもやと思ひて、やをら御几帳のほころびより、見たまへば、心もとなきほどの灯影に、御髪いとをかしげにはなやかに削ぎて、^{（注11）}寄りゐたまへる、^{（注12）}絵に描きたらむさまして、いみじうあはれなり。帳の東面に添ひ臥したまへるぞ宮ならむかし。御几帳のしどけなく引きやられたるより、御目とどめて見通したまへれば、頬杖つきて、いともの悲しとおぼいたるさまなり。はつかなれど、いとうつくしげならむと見ゆ。御髪のかかりたるほど、頭つきけはひ、あてに気高きものから、^{（注13）}ひぢぢかに愛敬づきたまへるけはひしるく見えたまへば、心もとなくゆかしきにも、^{（注14）}さばかりのたまふもの

を、と思し返す。

「いと苦しさまさはりはべり。 ⁷かたじけなきを、はや渡らせたまひね」
とて、人^{女房}にかき臥せられたまふ。

(源氏)「^v近く参り来たるしるしに、よろしう思さればうれしかるべきを、心苦しきわざかな。いかに思さるるぞ」
とて、のぞきたまふ気色なれば、
(御息所)「いと恐ろしげにはべるや。 ^{とて}乱り心地のいとかく限りなるをりしも渡らせたまへるは、まことに浅からずなむ。」
と聞こえさせたまふ。

「かかる御遺言の列に思しけるも、いとどあはれになむ。故院の御子たちあまたものしたまへど、親しく睦び思ほすをさをさなきを、^v上の同じ御子たちの中に数まへきこえたまひしかば、さこそ頼みきこえはべらめ。」
など聞こえて、^工帰^レりたまひぬ。御とぶらひいますこしたちまさりて、しばしば聞こえたまふ。

七八日ありて ^オ亡^レせたまひにけり。

【語注】

(注1) 六条御息所 … 男女の愛執の中で苦しみ、自らも生霊となって、愛する光源氏の想い人を次々と取り殺してしまつた

たとつらく思っている。

(注2) 聞こえたまふ … 謙譲語「聞こえ(申し上げる)」に、尊敬語「給^{たま}ふ(くなさる)」で構成される。ちなみにこの「たまふ」は連体形である。

(注3) 思ひたまへつれ … この「たまふ」は尊敬語でない特殊なもの。特殊な「給ふ」は、以下本文横に訳をつけた。

問一 この物語は『源氏物語』である。『源氏物語』の作者を答えよ。

問二 傍線部X「寄りゐ」は、「寄りゐる（物に寄りかかって座る）」と訳するワ行の動詞であるが、ワ行のひらがなを、次の「いろは歌」の空欄に埋めよ。

いろはにほへと ちりぬる ① かよたれそ つねならむ う ③ のおくやま けふこえて あさきゆめみし

④ ひもせず

問三 に入るのに最適なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

アこそ イや ウな エぞ

問四 傍線部1、傍線部4、傍線部7について、訳として最適なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

傍線部1「見ゆづる人もなく、たぐひなき御ありさまになむ」

ア 私を愛してくれる人もなく、比べようもなくつらい我が身の上です。
イ 私の病気の看病をしてくれる人もなく、この上なくつらいことです。
ウ 娘のお世話をお頼みする人もなく、この上なく不幸な御身の上です。
エ 娘に看病を譲ってくれる人もなく、私はとてもさみしく思うのです。

傍線部4「かけてさやうの世づいたる筋に思し寄るな」

ア どうかそのような好色がましい筋にでもお考えくださいませ。
イ どうしてそのような好色がましい筋にお考えなのでしょうか。
ウ 全くそのような好色がましい筋に考えなさることはないです。
エ けっしてそのような好色がましい筋にお考えくださいますな。

傍線部7「かたじけなきを、はや渡らせたまひね」

ア 畏れ多いので、どうぞお引き取りください。
イ 恥ずかしいのに、はやくもここに来られた。
ウ ありがたいことなので、ぜひ参りましょう。
エ 面目ないのに、とうとう来なさったものだ。

問五 傍線部2「思ひ放ちきこえさすべきにもあらぬ」とはどういうことか、その解釈として、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。ちなみに直上の「だに」は「くさえ」と訳し「AでさえBだ。ましてCはなおさらBだ。」と使う用法の助詞である。

ア 私が苦しめた六条御息所の看病をしています。

イ 私が斎宮の後見人としてお世話をしています。

ウ 私が斎宮と共に六条御息所の見舞いにいきます。

エ 六条御息所の感情を解き放ちにまいます。

問六 二重傍線部の中で、光源氏の動作を表していないものはどれか。二つ選び、記号で答えよ。

ア「見たまへば」

イ「かき臥せられたまふ」

ウ「のぞきたまふ」

エ「帰れたまひぬ」

オ「亡せたまひにけり」

問七 傍線部3「さらにうしろめたくな思ひきこえたまひそ」を「誰のことを」なのかを明らかにして現代語に訳せ。（この「たまふ」は特殊なものではない。）

問八 傍線部5「絵に描きたらむさまして、いみじうあはれなり」と、光源氏がまるで絵に描いたようだと思っているが、誰のどのようなことをたとえたものか、十五字程度で説明せよ。

問九 傍線部6「さばかりのたまふものを、と思し返す（あれほどおっしゃったのだから、とお思い直しになる。）」とあるが、御息所にどのようなことを言われたから、光源氏は思い直したというのか、解答欄に合うように、十字程度で説明せよ。

問十 波線部ⅰ～ⅴについて、正しくない解釈がある。次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア ⅰ 生きていても甲斐のない娘なので、病の娘が今しばらくの間でも平穩に生きながらえておりますうちは
- イ ⅱ ましてその世話役が愛人のようになったなら、きつと情けないことも起こり、周りから疎まれましよう
- ウ ⅲ 小柄で愛くるしくていらっしやるご様子がはつきりお見えになるので、心ゆらいでお逢いになりたいが
- エ ⅳ おそば近くおうかがいした甲斐があつて、少しでも病が軽くなるのでしたならば、うれしく思います
- オ ⅴ 院がこの姫君を御自分の子たちと同じように思われていたので、私も妹君として頼もしく思います

問十一 今回の文章全体の要旨の説明として最適なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 光源氏は、怨霊となり自身の愛する者を次々と何人もとり殺した六条御息所への憎悪を消すことができず、御息所に対する復讐心だけを理由にして、御息所の娘を預かることを決意した。
- イ 怨霊となって源氏の愛する者たちを殺してしまった六条御息所は、この後源氏が娘の斎宮をどうしたとしてもしかたないと思ひきらめると共に、自分の犯した罪の意識にさいなまれている。
- ウ 光源氏は、六条御息所が源氏に好色心を出すべきではないと責めることに絶えることができず、御息所こそ好色心がもとで男女の愛執に苦しんだのではないかと反論しようと身構えている。
- エ 六条御息所は、男女の愛執の中で苦しんだ過去の経験から、自分の娘にはそのような苦しみを味わわせたくないと、源氏の好色心に釘をさすような形で、斎宮の後見を光源氏にしたのだ。



Country	Year	Population	GDP	GDP per capita
Algeria	1990	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1991	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1992	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1993	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1994	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1995	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1996	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1997	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1998	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	1999	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2000	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2001	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2002	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2003	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2004	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2005	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2006	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2007	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2008	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2009	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2010	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2011	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2012	15,000,000	1,000,000,000	66,666,666
Algeria	2013	15,000,000		

受驗番号

中 心

※の欄には何も書かないこと

